



## コラム

## 有識者の目から見た安全・安心まちづくり（31）

今回は4月に開催しました平成29年春の交通安全県民大会で「ドライブレコーダー事例から知るセーフティドライブ」というテーマで、講演を賜りました一般社団法人日本自動車連盟関本勝則様にご寄稿いただきました。

### 安全で安心を身近に感じて頂ける「日常」と「普通」を知る

一般社団法人日本自動車連盟（J A F） 関本 勝則

2017年に入り奈良県内（3月13日現在）の交通死亡者数（事故発生から24時間以内での死亡者）は13人、昨年同日と比べ7人増となっています。2016年中、全国の交通事故死者数は、その前の年の4,117人から5.2%減少し3,904人となり、1950年以降、はじめて、4,000人を下回りました。しかし、高齢者の死者数は減り方が小さく、2012年以降、割合が5割を上回り、人口当たりの交通事故死亡者数は全年齢層の2倍以上となっています。その



他にも、昨年より報道等で取り上げられている、高齢者の運転操作ミスによると推定される事故が目立ち、自治体をはじめ各自動車メーカーも業界を上げA S V（先進安全技術搭載自動車）の普及に努めている状況です。

このような中、J A Fとして交通事故撲滅と安全と安心の支えとなるサービスを提供し交通安全と環境のための事業活動を積極的に進めています。J A F奈良支部においても、地域性に応じた交通安全啓発活動や、自治体及び地域、警察署、交通安全協会等の各団体と連携し、幼児から高齢者の方々の参加を得て「身近な安全」を知って頂く活動を実施しています。2016年度からは、体制を強化し「県民の皆さんが事故を起こさない、事故に遭わない」をスローガンに幼稚園（こども園）から高校、大学生や社会人の方々へ年齢や生活環境に沿ったカリキュラムを作成し、身近な危険「事故の怖さ」について、実技及び座学講習等を実施して記憶に残して頂けるよう取り組んでいます。

特に、小学生から高校生の方々には道路交通法の改正以後の自転車乗車ルール及び交通事故（加害者）になりえる、「ながら」（スマホや音楽機器使用）運転の危険性を実際に体験して頂く取組も実施しています。その他にも、大人の方々や高齢者には薄暮時、夜間の自動車からの視認性を説明し、反射材の効果や重要性についての理解を深めることで、利用の促進を図り、「自分の安全は、ご自身で守る」ことをご理解頂いています。

このような活動を通して奈良県民の皆様が被害者にも加害者にもならない、安全で安心を身近に感じて頂ける「日常」と「普通」を知って理解して頂くことを目指し県民の皆様と共に交通事故のない安全と安心のまちづくりを目指しています。

#### <プロフィール>

1987年にJ A F（一般社団法人日本自動車連盟）に入社後ロードサービス隊員として従事。その後、指導教育の部署や各府県支部の基地・本部指令責任者を経て昨年度より事業課交通環境の職務に従事しております。この3月末で勤続30年となり新たな目標として「悲しい、つらい交通事故」を減らし「あたりまえの日常、いつもの一日」を皆さんと共に迎えられる活動を実践して参ります。